

民生委員・児童委員
伊部 佑香さん・27歳 岩神町

社会参加の場を作り続けたい

昨年12月から民生委員・児童委員を務める伊部さん。

「自治会長から、私が訪問して話すだけでも笑顔になるよと言われ民生委員・児童委員になることを決めました」

町内で出会う人に声をかけたり毎週日曜に訪問をしたりと精力的に活動している。

「高齢の二人暮らしのお宅に訪問した際、不在だったため置き手紙をしました。次の訪問時にその置き手紙を壁に貼ってくださっていることに気づき、少しは役に立っているなと感じました」

伊部さんが理事長を務めるNPO法人きなねでは年齢に関係なく人と関われるコミュニティを作る活動をしている。

「年に4回、地域食堂を開催しています。地域食堂は高齢者も子どももみんながご飯を食べに来られるところ。料理上手な女性の活躍の場にもなっています。ほかにも全ての世代が自分の役割を感じられ



るようなイベントなどを開催しています」
喫茶ひみつの店主も務める。「町内の女性から教わった秘伝のレシピで作ったおはぎを提供しています。お店に来た誰もが常連さんだと思ってもらえるようにメニューは『いつもの』だけ。また、認知症の人が注文に悩まないようにもしています」
「周りの素敵な人と何かを残したい、一緒に時間を過ごしたい」と話す伊部さん。この気持ちを原動力に、みんなの社会参加の場を作り続けていく。

CITY フォーカス

本市のイベントや
事業などを紹介



前橋公園に花見客集う

楽歩堂前橋公園の桜が4月1日に満開に。会場はたくさんの花見客でにぎわいました。3月21日から4月12日までは芝生広場で桜まつりを初開催。キッチンカーや屋台が出店し、訪れた人は桜を眺めながらグルメなどを楽しみました。夜には桜がライトアップされ、幻想的な空間になりました。



本市の農業を紹介するこのコーナー。
今回は本市伝統野菜の田口菜を紹介します。

channel 27 田口菜

農政課
027-898-5841

3月中旬、田口町の丘では菜の花畑が一面黄色に色づきます。この菜の花は「田口菜」という摘み菜の一種で、南橘地区で古くから栽培され親しまれてきた本市の伝統野菜です。

くせのない淡泊な風味と若干の甘みが特長。一説では、明治天皇に献上されたときに、そのおいしさから町名を取った命名が許可されたといわれています。

戦前は田口町を中心に栽培されていましたが、戦後は他の品種が出回ったことで次第に生産が減っていききました。



南橘地区地域づくり推進協議会
(花・緑いっぱい部会) 部会長
岩崎富雄さん

平成19年、地域づくりを目的に南橘地区地域づくり推進協議会の花・緑いっぱい部会が「菜の花プロジェクト」を開始。6反ほどの遊休農地で田口菜を栽培する活動をしています。

このプロジェクトでは、会員約80人が10月に種



をまき、近隣農家の協力のもと管理。2月下旬に摘み菜をし、6月に菜種を収穫します。

花・緑いっぱい部会長の岩崎富雄さんは、「田口菜の管理は大変なことが多いですが、会員や地域の人のおいしいと喜んでくれるのがとてもうれしいです。このプロジェクトと、地域の人に愛される田口菜を今後も絶やさないように活動を続けていきたいです」と語ります。

田口菜はほとんど一般販売していませんが、南橘地区以外の人にも活動に参加できます。興味がある人は、南橘市民サービスセンター（TEL 027-231-2376）に問い合わせてください。



強敵から勝ち星を掴む

4月4日、ヤマト市民体育館前橋にて群馬グリーンウイングスのホーム戦を開催。ヴィクトリーナ姫路に3-1で勝利しました。MAEBASHI PRIDE 群馬銀行スペシャルマッチとして開催した本戦は市民300人を無料招待。詰めかけた多くのファンによる熱い声援が会場に響き渡りました。

焼きまんじゅうを満喫

4月11日・12日に敷島公園で焼きまんじゅうフェスが初開催されました。県内の焼きまんじゅう店の出店や自ら焼いて自由に味付けできるオリジナル焼きまんじゅうづくり、焼きまんじゅうにまつわるアトラクションなどを実施。11日は前橋ウィッチーズが登場し、会場を盛り上げました。

